

平成 25 年度第 5 回（122 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 25 年 11 月 26 日（火）午後 2 時から

場 所：中清戸地域市民センター第 2 会議室

出席者：野島和季子、河原守、真田美那子、菊池義昭、小川弥栄子、石津和幸、  
菊谷隆、林光夫、吉岡袈裟喜、山本強、鬼澤義信、柴田正子、星野芙  
美子、竹森菜摘、法性由紀枝

事務局（企画課長、市民協働係長、企画課主事）

欠席者：原田輝雄、長谷部勝也、齊藤しのぶ、鈴木紀子、車崎祥子

<配布資料>

- 1 平成 25 年度第 5 回（第 122 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 平成 25 年度第 4 回（第 121 回）清瀬市まちづくり委員会議事要旨
- 3 提案「ハンドメイドで街の活性化」資料
- 4 提案「市に観光課を設置&仮称・観光ガイドボランティアの会の設立」  
資料
- 5 提案「猛暑避難場所の運営の見直しを！！」資料
- 6 提案「清瀬情報誌の発行配布を！」

**1 開会**

**2 前回の確認**

委員長：開催通知と同時に送付している前回の議事要旨及び提案「ハンドメイドで街の活性化」の回答案について確認をしてもらいたい。

委員：議事要旨については誤字があるので訂正をお願いします。

事務局：訂正する。

委員長：ページ数もつけられるとよい。議事要旨についてはよろしいか。

<委員了承>

**3 提案審議**

委員長：提案「ハンドメイドで街の活性化」の回答案について意見、訂正などはあるか。

委員：重複した言い回しの箇所がある。訂正をお願いします。

事務局：訂正する。

委員長：回答案についてよろしいか。

<委員承認>

委員長：事務局から連絡事項はあるか。

事務局：提案審議の参考資料を多めに配布している。確認を取らせてほしい。

委員長：「ハンドメイドで街の活性化」について、提案者に活動団体の一覧表などの参考資料も送付する。

委員：一覧表の中でハンドメイドに類する活動団体はあるのか。

事務局：ほぼないと考える。

委員：各市でハンドメイドの展示会、雑貨市など行なっている。

委員：主催団体はどこか。

委員：資金集めの目的もあり、団塊交流会などの団体が多い。

委員長：清瀬で行なう活動が多くなればよいと考えての提案と考えるが、グループ仲間を増やすことや情報を収集していただくことなどまずは活動を行ない、そこで意見があれば、提案に結びつけていただければよいと委員会として考える。

委員長：次に「市に観光課を設置&仮称・観光ガイドボランティアの会の設立」について資料を確認する。委員から提案に関する意見書の提出があり参考としたい。

委員：組織の現状や行政改革などの観点やかつての「観光」についての議論を考慮すると観光課新設は難しいと考え、産業振興課を産業振興観光課などに改称し、観光行政を一元化した方が現実的と考える。

委員長：提案に対する方向性を決めておきたい。

委員：前回観光課必要との結論であったか。

委員長：結論はでていない。イベントとの開催の仕方をうまく活用するために観光課が必要なのか否かが提案の意図しているところである。

委員：名称変更は市議会了承は必要か。

事務局：条例か規則かの規定によって違いがある。

委員：名称変更は問題ではなく、イベント開催時に市がどこまで関わっていくのかが問題。

委員：神社やお寺は人を呼べると考える。パンフレットをまとめるなど広報をうまく利用するとよい。

委員：イベント活性化には市民と商業関係の連携が重要である。イメージアップに結びつけられれば、観光課の名称改称は有効である。

- 委員：観光事業の可能性や素材あるか。事業化は難しい。行政としての軸となる考えがないと名称変更も意味がない。
- 委員：観光課のように独立する部署は時期尚早。
- 委員：観光係は考えによっては範囲が広がる。観光係としてなにを取り扱うのかも議論しなくてはいけない。
- 委員：「観光」という名を入れることでひとつの位置付けになると考える。
- 委員：幾つかの既存のものをまとめて観光に結びつけていくと考えるが果して市民が観光を望んでいるのか疑問である。観光課にこだわらず、支援する人を創ってあげればよい。
- 委員：観光地には観光案内所がある。清瀬市もボランティアなど支援する人で運営ができれば、課の設置は必要ない。
- 委員：以前のまちづくり提案の中にも観光協会や案内所設置の要望がある。提案内容を拡大解釈はしないと規則があるが、同様の提案はまたあると思われるので、案内所の設置を提言してもよい。
- 委員：提案を広げた審議ができるとうい。
- 委員：案内所の設置はよいが、前提になるマップの作成などはやはり観光部署がないとできない。
- 委員：以前、駅前に観光所設置の話があった。
- 委員：諸費用もかかる。観光発信など取りまとめる部署は必要と考える。
- 委員：組織図、業務内容は資料があるが、産業振興課（産業振興係）の人数はどうか。
- 事務局：課長職含めて7名である。
- 委員：まちづくり委員会運営基本方針にも財政への貢献度の記載があるが、財政の支出も考え、新設ではなく改称がよい。
- 委員長：公共性や財政面などを議論しながら適正な判断をすることが求められる。前回からの審議を考え、提言に結び付けられればよい。提言としても観光課設立は時期尚早であるとの意見多数である。提言内容は更に審議を重ね具体的にしたい。例えば、改称にあたって、業務内容の要望や、観光案内所の設置の所管要望などを詰めていきたい。
- 委員：なぜ清瀬市に観光が必要なのか、観光事業化の可能性あるのかの議論は必要である。
- 委員：情報発信の場と考えている。
- 委員：そこも含めて整理する必要ある。
- 委員：参考意見として市長へ提案する方向もある。
- 委員：産業も観光として含めるのか。
- 委員長：両方含めて議論していく。
- 委員：部会を創って意見をまとめてそれを検討することもよい。

委員：目玉になる観光資源がいくつあるのか知っておくとも必要。

委員長：今回の提案は継続審議としてよろしいか。

委員：分析検討を次回以降していけばよい。

委員：市が観光素材として意識、認識しているものがあるか。

委員：駅前に散策10コースの案内ある。

委員長：開催などについては担当に委ね、その道筋をつけるのが、委員の役割である。提言するうえで、事務局の話しを伺いたい。

事務局：組織の課題見直しをしている。検討委員のなかでは、シティーセールスを清瀬市でも推進していく必要があると考えている。各課がそれぞれに魅力ある情報発信を推進していることもあり、担当部署設置ではなく横断的な会議体を市で作り上げ、担っていけるように検討している。

委員長：市としても動きがあるので、提言するよいタイミングかと考える。次回以降継続審議と考える。また、新たな提案も関連性があるので読み上げる。

#### 【提案内容】

現在、清瀬市には市をPRする刊行物が多く出されていますが、各課各々で作られているため、内容が担当されている分野の内容に限られ（横の連携が取れず）たり、行政からの情報に限られていたりするように感じます。

市外の人に関わらず、既に市に住んでいる人にとっても、清瀬の魅力を再発見できるようなガイドブックを作ってはどうか。例えば、国体開催時に配布された「るるぶ」のような情報誌のようなスタイルが良いと考えます。

掲載内容は、グルメ、名産、名品、歴史・自然散策、伝統文化、イベントカレンダー（市内の神社仏閣・地域で伝統的に行っている催し等）として掲載）、市内企業の紹介（大林組などは有名ですが、市内には実力があってもなかなか市民に知られていない企業もあると思います。）等が考えられます。

清瀬市の魅力がこれ一冊で、一目で分かるようなものを作っていただきたいと思います。費用はそれなりにかかると思いますが、有料で販売すれば市の財政の負担も軽くなると思います。ただし、有料となれば見てみたい、買ってみたいと思わせるような内容と見易さが鍵だと思います。

清瀬外の人に魅力を伝え、清瀬の人にとっては、清瀬の魅力を再発見し、清瀬に対する郷土愛、ふるさとへの思いを深めることができるような情報誌を是非市として作ることをご検討ください。

委員長：関連性ある提案なので、同時に審議できればよい。また、前回読み上げた老人いこいのいえの審議も次回資料を基に審議していけるとよい。

次回 12 月 24 日、中清戸地域市民センター会議室 1 にて 14 時より行う。